

Okayama, 2018

名前： 栗富陽

研修内容：日本語教育について

岡山研修レポート

瀬戸内海に面し、日本の中国地方南東部に位置している岡山県は景色も美しく、気候も快適で、「晴れの国」と呼ばれています。今年の10月から、岡山県で三ヶ月間の研修を受けましたが、ここでいい思い出が沢山できました。本日は研修員修了式に参加するにあたって、心より嬉しく思うとともに、感謝の気持ちも深く感じております。まず、この度は岡山県の海外技術研修員受入制度により、研修機会を与えて頂いたことを心より感謝申し上げます。そして、岡山県の皆様、国際交流センターの皆様におかれましては、多大なる御協力と、大変温かく、きめ細やかな対応を頂き、厚くお礼申し上げます。

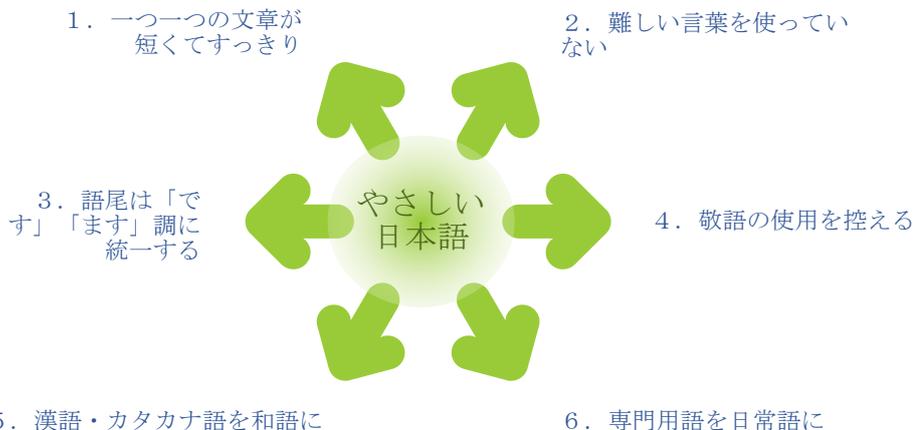
研修の間、沢山の感動と幸せが強く印象に残りました。岡山県庁と国際交流センターの職員の皆様のおもてなしは大変厚く行き届いており、真面目に勤務される姿はぜひ見習わせていただきたいと思います。岡山県の県民の親切さにも非常に感動しました。一生忘れられない思い出になりました。岡山大学で研修している間に、中東先生をはじめ、教職員の方々からも丁寧なご指導をいただき、また、専門分野においても貴重なアドバイスをいただき、とてもいい勉強になりました。中東先生は知的で上品な先生で、専門分野においても多くの貴重なご指導やご意見をいただき、大変感謝しております。

あっという間に三ヶ月ぐらい立ちました。これから、私は以下の三つの視点からこの三ヶ月間の研修内容をまとめていきたいと思います。

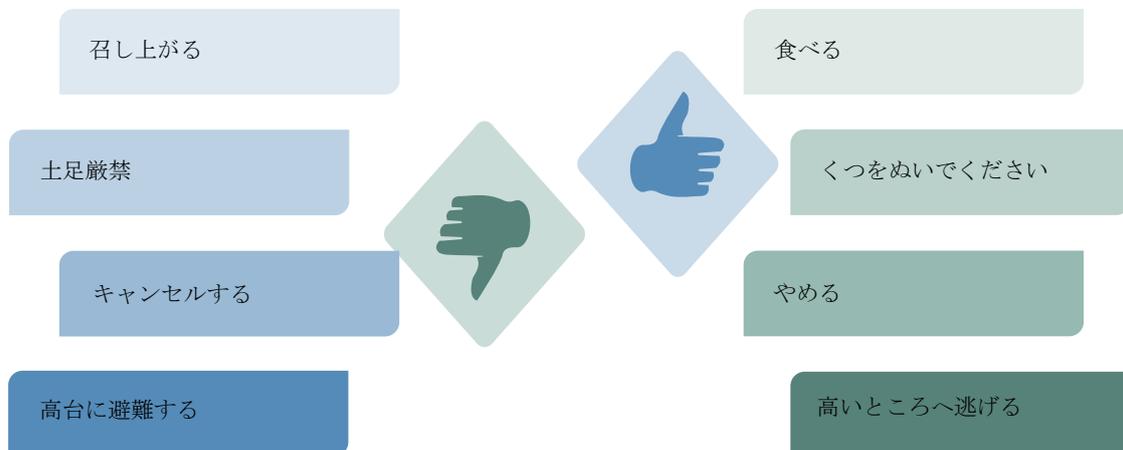
授 業

中東先生はやさしくて親しみやすいので、学生に非常に人気があります。毎週、授業が始まる前に、いつもプリントを配ってくれ、授業の内容もとてもおもしろいと思います。この三ヶ月習ったものはここで一応まとめていきたいと思います。日本に暮らす外国人は平成29年末現在で約256万人となり、総人口の約2%を占めています。前年より7.5%増やしてきました。そして、国内の日本語学習者数約24万人のうち、8.5割をアジア地域の出身地が占めています。国別では、中国、ベトナム、ネパール、韓国、フィリピンが多いです。それで、日本に住んでいる外国人はどの程度、日本語の会話と読み書きができると思いますか。文化庁『H26年度 国語に関する世論調査』によりますと、67.1%と54.9%の外国人がそれぞれ日本生活に困らない程度、日本語の会話と読み書きができるということが分かりました。ただ11%ぐらいの外国人は仕事や学校生活が円滑に行える程度できるのです。だから、一つは「やさしい日本語」がどのように話せるのか、それは課題になります。日本語能力を身に付けるために、48.7%の外国人が無料の日本語学習機会の充実を図るという取り組みが必要だと思っています。そのほか、40.8%の外国人が友人・家族・地域住民など身近な人が日本語を教えるという取り組みが必要だと思っています。ただわずか5.9%の外国人が特に必要な取り組みはないと思っています。もう一つはどうして「やさしい日本語」が必要なのか。災害の時、外国人はいつも情報弱者になりがちです。例えば、1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災の被害者のうち、明らかに外国人の方が高い割合で被害を受けています。もし地震が会った時、ラジオで放送された文は全部やさしい日本語だったら、日本語に不慣れな外国人も読んですぐに内容がわかるだろうと思います。

最後に、「やさしい日本語」はいったいどんな特徴があるのか。以下のような図表をご覧ください。

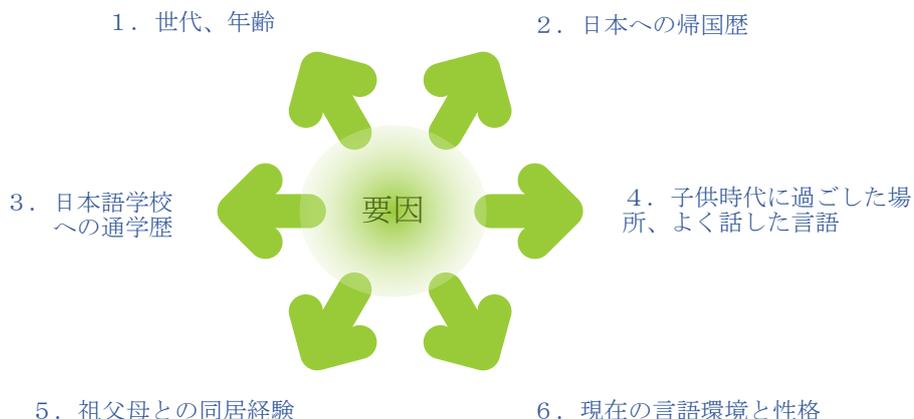


例として次のような図表になります。



つまり、「やさしい日本語」の勉強はとてもおもしろくて重要なポイントだと思います。

また、日本語能力に影響する要因について話したいと思います。以下のいつかの要因になります。



上の表が示しているように、さまざまな要因が日本語能力に影響しているのです。外国で日本語を勉強している学生にとって、言語環境もないし、日本へ留学に行く経験もなく、どうしたら日本語を上手に話せるのか。それは一つの課題になります。今教える学生

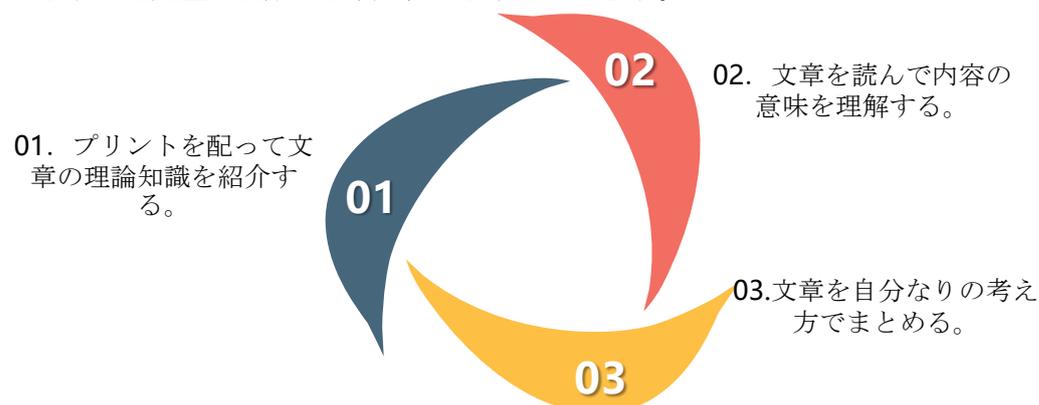
はみんな大体二十歳以上で、母語として日本語を勉強する子供と違って、ものに対する認知と判断能力を持っています。それで、これらの学生に日本語雰囲気溢れる場所と環境を作らせることとか、日本へ留学に行くアプローチを提供させるとかことなどがとても必要なものだと思います。

堤先生の授業は主に日本語 1a と日本語超級と日本文化学です。ユーモアがあったとてもハンサムな先生だと思います。

この三ヶ月で「まほろ駅前多田便利軒」を読んで感想文を書きました。読んで見ると、「まほろ市は東京のはずれに位置する都南西部最大の町です。駅前で便利屋を営む多田啓介のもとに高校時代の同級生・行天春彦が転がり込み、二人は様々な依頼に精を出します。」が分かりました。そのほか、日本文化学の授業で、「旅行」というテーマの発表をしました。人生はよく旅に例えられます。旅そのものが人生を変えることがあるように、何か新しい変化を求めている人はまずは旅に出てみましょう。終着点は重要じゃない。旅の途中でどれだけ楽しいことをやり遂げているかが大事なのです。

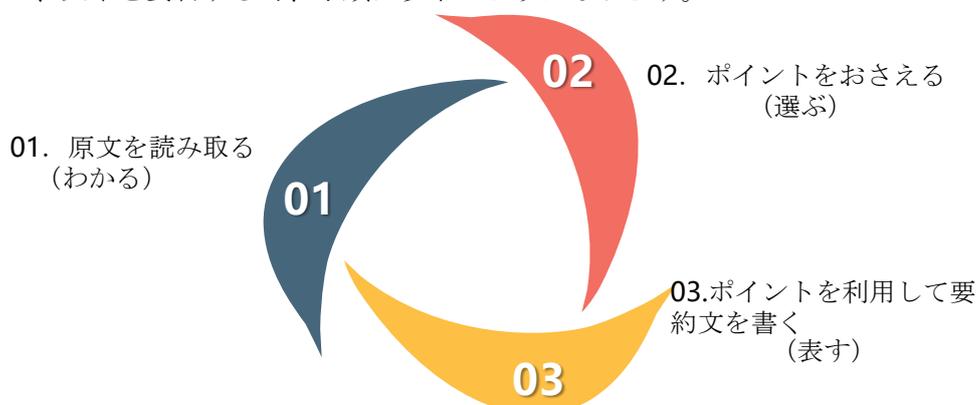
八尾先生と言ったら、中東先生と一緒にとてもやさしくて親しみやすい先生だと思います。八尾先生の授業はアカデミック日本語演習といって、主に文章の要約について教えています。そのほか、文章の例文を通して何回も練習しました。

まず八尾先生の授業の手順は次のようになります。



文章の内容に入る前に、まず関わる理論知識を説明してくれて、それは文章をもっと理解しやすくなるように役立っているのです。まとめてきた内容をもう一度先生にチェックしてもらったら、どこか間違っただけすぐわかるようになりました。

また、文章を要約する時、手順は以下のようになります。



例として、一つの文章を挙げられました。テーマは『なぜ、あの人が話すと、意見が通るのか』です。人前で話すのが苦手な人はいつも早口になりがちですから、せめて「最初の一言」をゆっくり話すことから始めます。なぜかという、ゆっくり話すと、聞き手に

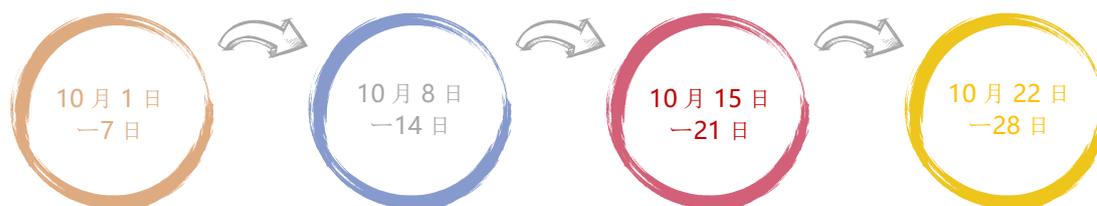
時間もできるし、話しの内容を考える余裕もできるからです。

11月で「思考の整理学」という文章を読みました。考えをまとめようとして、なかなか思うように行かなくて、いらいらすることがある。その時、まず「とにかく書いてご覧下さい」という助言をすすめます。また気軽に書いてみれば、いい論文とかレポートとかかなど書けるようになります。

宮崎先生は言語学分野の教授です。授業でみんなは一週間に一回一人ずつ発表します。自分研究した内容を発表してから、宮崎先生の指導でみんな一緒に討論します。例えば、「日本語 NV 複合語の語形成」、「現場指示において中国語の三人称代名詞の使用条件に関する研究」、「可能表現について」、「日本語における認識モダリティ<かもしれない>の意味・機能」です。今回の研究内容は言語教育に関わっているので、授業終わった後、宮崎先生にもいろいろ指導やアドバイスをいただいてありがたく存じます。余っている時間を利用して宮崎先生が薦めてくれた本を読んで勉強します。

日本語教育

毎週の水曜日と金曜日は授業がなくいつも図書館へ行って研修内容に関わる本を調べて読みます。この三ヶ月の間、読んだ本は以下のようになります。



よくわかる学びの技法

田中共子 編著

新・教育学（第2版）
現代教育の理論的基礎

南新秀一・佐々木英一・
吉岡真佐樹 編著

やさしい教育原理

中野新之祐 編著

教育と授業の理論

三上 勝夫 編著



「日本語教育を学ぶ」

遠藤織枝 編著

「日本語教育学を学ぶ人
のために」

青木直子 編著

「日本語教授法」

木村宗男 編著

日本語教育についてこの三ヶ月で学んできたもの以下の目次のようになります。

- ① 教育の概念
- ② 日本教育の特徴
- ③ 日本語教育の内容
- ④ 日本語の教育評価
- ⑤ 日本語勉強の学び方
- ⑥ 日本語教授法
- ⑦ 日本語コミュニケーション能力
- ⑧ 日本語教師としての一日

一、教育の概念

教育に対して以下のような素朴概念があります。「教育は人間が幸福を追求するうえで価値ある働きである」という人生論もあるし、「教育は平和な世界を築く礎石である」という社会的なものもあります。そのほか、「自分の生活の安定のため」という経済的なものもあります。教師として、私はその動機のすべてを受け入れます。しかし、「教育困難」といわれるこの時代でどのように「教育困難」を「教育容易」にするか、それはとても大事な課題だと思います。「教育容易」に至るその過程の中に「教育方法」が重視されるべきものだと思います。

今学校の授業を「愉快」と感じている子供の数は多いとはいえません。「わかる授業」と「楽しい授業」との両立という課題があります。「教育内容・教材・教具」、「教授行為」、「学習者」、「授業の計画と評価」という順序で、それぞれ論じたいので、最後に近年の「教育改革」が授業にもたらす影響について述べています。

それで教育内容と教材とはどう違うのですか。教育内容は一般的には、様々の文化・芸術領域における「概念」「知識」「技能」として定義されています。その重要な特徴として、「ものとしての形をもたず、知覚でとらえることができない」ということがあげられます。したがって、教育内容を学習者に直接手渡したり、示してみせたりすることはできません。このような教育内容を学習者に伝えるためには、教育内容と学習者との間を媒介するものが必要になる、それが「教材」である。

教具とは、授業において使用する道具一般を指すけれども、そこには二つのレベルがあります。黒板、チョーク、ノート、鉛筆、机、椅子など、多くの教科書で共通に使用する教具のレベルと、模型、実験器具、その他教師が独自に工夫して作成する教具など、特定の教科書・特定の教育内容との関連を有する教具のレベルとです。

教授行為とは何か。発問、指示、板書、教材の提示など、教師から学習者への一連のはたらきかけを指します。前は説明した教育内容・教材・教具が基本的には授業以前に教師が準備するものであるのに対して、教授行為は、実際に学習者の前に立ったときの教師のしごとです。

教科書の指導計画については、年度当初に立てる年間計画に始まり、学期ごと、単元ごと、1時間の授業ごとなどさまざまなスパンのものがあります。指導計画に必要な要素は、日時、対象、単元観、教材観、生徒観（該当教科・単元との関係での学習者の状況と課題）、本時の目標（その一時間で何をめざすか）、準備物、本時の計画、評価の観点・方法といったものです。

二、日本教育の特徴

今日本教育の特徴は次のようになります。



日本の教育の特徴の第一は、高い就学率です。義務教育はもとより、義務的ではない高等学校にも 94%にのぼる大多数の子供が通っています。大学には、約 35%すなわち同世代の青年の三分之一が学んでいます。

高等学校の中途退学者、年間 10 万人います。登校拒否ともいわれる長期欠席者、小学校 4000 人で中学校 3 万人です。喜びいさんで入学した学校がきらいになります。学校にかよう年月が長くなるほど勉強がいやになります。他人と交わる楽しさを学ぶのではなく、異質なものを、弱いものを虐待することでうさをはらしめます。こうした否定的現象が日本の教育に暗い影をなげています。日本の子供は育ちあぐんでいきます。

三、日本語教育の内容

日本語教育の内容をまとめると言ったら、以下のように分けられています。



音声と言語と不可欠の関係にある以上、音声の指導は当然最優先され、日本語教育でも一時間目から耳と口を使って授業が行われる。発音は特に母語の干渉を受けることが多く、また誤った発音はあとで矯正することは容易ではないので、正しい発音を最初の段階で定着させなければならない。

学習者が習得しようとするには、どうやって文をつくり、どうやって文を理解するかである。文法はまず文を基本的な単位として、語や活用は其中で考えるべき問題とする。そこで、日本語教育では言語単位としての文を構造の面、及び話し手の表現意図の面から類型化したいわゆる「文型」によって表現あるいは理解の指導を行う。

初級段階でまず、どれだけの語を。そしてどのような語を学習させるかということが問題になるが、まだあまり客観的な調査によるものではなく、主観的な選定によるものがほとんどである。「外国人能力試験」の認定基準でも初級日本語コースを修了した程度の語彙力を 1500 語程度としており、語数はあげている。

文字教育として、平仮名・片仮名・漢字、そしてそれぞれの表記法があげられる。平仮名 1 字が原則としては日本語の 1 拍を表すという利点を生かし、音声教育に結びつけて最初から平仮名を指導するというのが現在の日本語教育の一般の方法である。

四、日本語の教育評価

みなさんはこれまでさまざまな形の教育評価に出会ってきているはずです。それらの経験を振り返りながら、教育にふさわしい教育評価のあり方について、あらためて考えてみましょう。教育評価という言葉を知ると、多くの人が教科書ごとに1から5までの数字が書き込まれた通知表を思い浮かべることでしょう。この本の記載によると、教育評価は次のように規定できます。教育評価は教育の活動を評定し、その結果にもとづいて、次の教育活動、学習活動を計画するために行うものである。教育評価を広くとらえれば、しかったり、ほめたりなどの行為も教育評価の一つだということもできますが、一般には教育評価という用語は、ここに述べたような限定的な意味で使われています。

教育評価によって教師は、教育活動の結果として生徒が手に入れた学力や能力の内容を調べ、次に行われるべき教育活動の計画を立てることができます。これを子供や親に伝えれば、子供も親もこの教育計画に参加することができます。さらに、教師は評価の結果を教育活動にフィードバックさせて、よりよい教育活動を行うための手がかりを得ることができます。それは教育評価の機能です。

五、日本語勉強の学び方

大学で勉強をする時、どんな学び方を身につけたほうがいいのか。次の図表をご覧ください。

1. 講義を聴く、レポートを書く

まず、講義を聴いて理解していく力が基本になります。要領よくノートを作っていく術を覚えましょう。次に、自分の見解を筋道だてて構成しながら、論理的な文章を書く力を養いましょう。さらに図表を作成したり図表から情報を読み取る力も、科学的、実証的な研究には不可欠です。

2. 参加型の授業をこなす

実験、調査、実習、演習など、自分が手作業をしていく授業は研究活動の雛形をなぞるもので、大学らしい大事な科目です。上手な説明や鮮やかな発表は、就職試験でも社会に出てからでも大変役に立つ能力なので、練習しておきたいものです。

3. 資料やパソコンを活用する

学びが次第に深まると、文献、論文、外国語資料など、専門性の高い資料を扱います。これらは、学びの到達度を高めるのに利用されます。

4. 学びを深める方法

問いを探して研究計画に育てていく力がとても大事なものです。学びを集大成する卒業論文に至る道筋を段階的に整理しておきましょう。

ところで、大学卒業者に期待される能力はいったい何でしょうか。大学卒業時の就職活動で重視されるものには、大学での知識、専門の知識のほか、問題解決能力や情報通信の知識などがあげられています。次の図表になります。

採用時に人事部長が重視するもの

積極性、業務への適性、個性、協調性、コミュニケーション能力、常識、問題解決力、感情の安定性、リーダーシップ、パソコン・情報通信への適応力、筆記試験の成績、専門知識、大学での知識、大学名、語学力、国際感覚、容姿

六、日本語教授法

2003年調査によれば、海外の日本語教師は約3万人となっている。日本語を母語とする教師は約3割、約7割は日本語を母語としない現地の教師である。言語教育の専門家としてのみならず、日本の文化・社会を知る窓口としてもネイティブ教師の需要は高い。ネイティブ教師には長期間その地に生活の基盤をおいている教師と短期間の派遣講師がいる。終了した教師は、帰国後、自国や地域で日本語教育の指導的な役割を果たすことが期待されている。

外国語教授法と言えば、それはその時代のニーズや、よりよい学習効果を得るための学習理論、言語理論などに支えられて変化してきた。これからはいくつかの代表的な教授法について取り上げる。

1. 訳読による教授法（文法翻訳法）

文法翻訳法は「文法訳読法」や「対訳法」とも呼ばれ、この教授法で授業を受けた人たちも多い。この教授法の特徴は、まず、文法規則や語形変化を覚え、すべての文を母語に翻訳することにより、内容を理解することになる。そのころの外国語学習の目的は、実用性やコミュニケーションをはかることよりも、知的訓練や教養を高めることにあった。

この教授法の長所として、クラスの学習者数が多くても、短期間で文法・語彙・表記の力がつき、読解力や翻訳力、作文力の養成に向いている。母語と外国語の差がわかりやすく、学習者にとって理解できない状況におかれることはない。

この教授法の短所としては翻訳が主体になり、実際の場面における会話能力や聴解力が身につかないことがある。また、教師主導型の授業になることや文法事項の学習者の大きな負担になり、学習者が苦痛に思ったり、単調でつまらないと感じたりする。

2. 直接法による教授法（ナチュラル・メソッド）

産業革命以降のヨーロッパでは、書物から得る以上に、直接、人とコミュニケーションをはかることが重要になり、学習者の母語や媒介語を使用しない直接法によるさまざまな教授法が開発された。ナチュラル・メソッド即ち自然的教授法は外国語学習も幼児が母語を身に付けると同じように、自然な過程に倣って会話能力の修得を目標にした教授法である。

この教授法の特徴は以下になります。1、教室では目標言語のみを使用する。2、教師を模倣して発話し、文法の説明はせず、適切な例文を数多く示すことで正しい文が作れるように訓練する。3、口頭練習に力をおき、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの順で教える。4、語彙は母語による説明ではなく、実物や絵・写真・動作などで示して学ぶ。

3. 構造言語学の理論に基づいた教授法

日本語教育の中でも中心的な教授法として、al 教授法（オーディオリンガル・メソッド **audiolingual method**）が挙げられました。この教授法の特徴は以下ようになります。1、文字を使わずに「耳」と「口」の訓練を中心にした音声による教授。2、文型を定着させるためのパターン・プラステイス（文型練習）や文の模倣と暗記（ミム・メモ練習）、ミニマル・ペアなどの練習を繰り返し行う。3、構造シラバスに基づいてカリキュラムが設定され、学習項目はやさしいものから難しいものへ、使用頻度の高い文型から順に学んでいく。4、教師はノーマル・スピードで話し、新出語や文型は既習の文型や語彙を使って教える。

4. コミュニケーションを目標においた教授法

成人学習者のためのコミュニケーションに必要なシラバスに基づいた教授法はコミュニカティブ・アプローチと言う。この教授法は実態に即したコミュニケーション能力の獲得を目指していく考え方や言語教育観として位置づけられております。その特徴は認知心理学などを応用した学習者中心の学習形態がとられている。この教授法の長所は以下ようになります。1、現実のコミュニケーションに近いので、練習効果が高い。2、学習者のニーズが重視されるので、すぐに役立つことが習える。3、学習者中心ということで、学習者の興味を引き出し、学習意欲を高めることができる。4、言語形式の正確さよりも、意味を伝えることが重視され、必要な項目から学ぶことができる。

5. 心理法や認知学習理論に基盤をおいた教授法

この教授法は学習の過程で学習者が気づいたり、自覚したり、認識したりすることを促すものでなければならないと説いた。そのため、教師はできるだけ発話を避け、学習者の自主的な発話を促し、手助けをする役割に徹する。教師はこの学習を助けるうえで、主に以下の教具を使用して指導する。1、サウンド・カラーチャート：音声色彩図。発音を練習するための色のついたカード。2、フィデル：スペルチャートともいう。ひらがなやかたかなで表記されたもの。3、ワード・チャート：語彙チャート。色でフィデルと対応した色で書かれた数百の単語表。4、ロッド：1 cm～10 cm までの四角い棒。長さによって色が違い、組み合わせによって文を作る。10種類10色。

七、日本語コミュニケーション能力

日本語コミュニケーション能力には、文法能力、社会言語能力、談話能力とストラテジー能力の四つの部門が含まれる。まず文法能力とは、言語を文法的に正しく理解し使用する言語能力のことですが、これは文法規則だけではなく、語彙、発音、文字表記も含まれます。社会言語能力とは場面に応じて言語を適切に使用し、理解するための能力です。談話能力とは、単独の文を超えて意味のまとまりを持つ談話という単位における理解と産出を行う能力のことです。ストラテジー能力の「ストラテジー」とは、もとは「作戦」とか「戦略」を意味する言葉ですが、外国語教育では「方略」と訳されることが多いようです。

教師として、「教育の目的は何か」という問題に答えを出しておかなくてはなりません。大まかに言うと、この質問の答えは2種類に分けられるようです。一つは伝統を次の世代に伝えること。もう一つは新しいものを創り出す力を育てること。前者は人を社会に適応させるという側面が強調され、後者は教育が社会を変える可能性をも示唆しているという点で対照的です。

八、日本語教師としての一日

日本語教師の一日を考えると、教室に立つ教師の姿を思い浮かべることが多いかと思いますが、授業をしている時間は教師の一日のほんの一部にすぎません。それで次のようになります。

一、授業の準備

授業の準備といっても広範囲にわたり、一般的なものでは、教科書の選定、シラバスの考案から、毎週の授業の教案の作成、タスクシート、聴解用テープなどの教材やテストの製作などがあります。日々の授業の準備も大切ですが、それだけではなく、いつも、一週間先、一ヶ月先、1学期先、1年先を考えて、いろいろな準備が必要です。例えば、ある一日には、翌週の教案を書き、翌々週の読み物教材を検討し、学期末試験を作り、次学年の教科書の申請をしました。

二、授業の処理

授業の処理には、学生の出欠、参加の記録に始まり、先生方の報告に基づく不備の調整から、テストの採点、宿題の添削、模範回答の掲示、補充教材の作成、日本人ゲストへのお礼、などが含まれます。学生に研究発表をさせた週は、週末に発表のビデオを見て、学生の姿勢、発音、アクセント、抑揚、文法事項、内容の深さと正確さ、全体構成など、学生に前もって知らせてあった評価事項を列記した評価用紙を見ながら、一人一人評価しました。

三、学生との対応

まず、大学での勉強に関する相談があります。日本語関係の専門知識を持っていれば答えられる質問よりも、学習の方法を知り、学習リソースに関する知識を持ち、大学組織の機構・規則を知り、学生の文化的背景を知り、人間として善悪の判断をすることまで迫られる質問のほうが多いのが現実です。次は学生の個人的な相談もあります。日本人の友達に結婚式に呼ばれたが、何を持っていけばよいか、来学期で卒業だが、何をすればよいか、などなど学生は本当にさまざまな状況で大学生活を送っているのだなあと考えさせられます。

四、研究に関わるもの

日本語教師を目指している皆さんの全員が大学に勤めるわけではありませんし、日本語教師をしていく上で、研究と常に関わりを持っていることは非常に大切です。教室活動の中から出た疑問を解くために研究論文を読む、またはその逆に、研究論文を読んで発見したことを基に教室活動に新しい試みを導入してみる、といった関わり方です。日頃から研究論文を広く読むことを心がけそこからさまざまなアイデアを得て教室活動に反映させることも重要です。

活 動

10月9日、小田さんと惣田さんと一緒に倉敷へ見学に行きました。岡山県に来る前に、もう倉敷が長い歴史をもつとても有名なところだと聞きました。今回行ってみると、やっぱり環境もいいし、古い建物がたくさんあるいいところです。そこでもボートに乗ったり、デザートを作ったりなどできる場所なんです。とても楽しい一日でした。



10月21日、岡山県国際交流協会交流バスツアーで笠岡市へ見学に行きました。その日は晴れていてとてもいい天気でした。笠岡市カブトガニ博物館と旧矢掛本陣石井家へも見学に行きました。



10月27日、国際交流センターで研修員触れ合い講座が行われました。日本のところどころからいらっしゃった多くの方が参加しました。私は中国の江西省の代表として「江西省について」をテーマにして発表しました。江西省の特産、観光地、おいしい料理、有名な大学と文化を来場の人々に紹介させましたが、多くの人びとにも中国文化および江西省の文化を広げてあげました。とても珍しいチャンスだから、私もいい勉強になりました。



11月2日、岡山大学で祭りが行われた。日本に来て以来、初めて日本祭りを体験しました。雰囲気もいいし、活動も豊かです。その日、学生はみんなお休みです。ところどころから岡山大学へ祭りを見に来た人がいっぱいキャンパスは賑やかになりました。私も興奮していて友達と楽しい一日を過ごしました。



11月11日、大西さんと一緒に「王子がだけ」という山に登りました。山頂から眺めれば、目の前の山々がおにぎりのように見えるってとてもおもしろくてきれいな所だと思います。



11月23日、県庁の友達といっしょに地酒列車という活動に参加しました。列車で日本酒を飲みながら倉敷と矢掛という二つの所へ観光に行きました。それは楽しみでした。



11月24日、国際交流センターでピンポン交流試合が行われました。日本人を除いて、外国からのおおくの人々も参加にきました。うちのチームのみんなは一所懸命に協力して戦った結果、第5位を取れました。トップ3に入らなかったけど、多くの友達ができましてあの日は本当に楽しかったです。



以上は私この三ヶ月で岡山で研修して学んだものです。岡山での素晴らしい体験は私の人生の中で一生忘れられない記憶となりました。岡山の風土を感じるだけでなく、日本文化への理解も深まりました。この三ヶ月の間、周囲の方々のお力添えには、大変感謝申しあげたいと思います。岡山での出来事を挙げると、知り合いでもないのにも関わらず、スーパーで買いものを手伝ってくれたり、駅で家までの道を親切に調べてくれたり、デパートで商品の使い方を詳しく教えてくれたり、レストランではすばらしいサービスを提供してくれたり「思いやり」に溢れていました。岡山大学は歴史の長い、有名な大学で、キャンパスは閑静で、設備が整った図書館で本を読んだ時には大変アカデミックな雰囲気を感じました。

今回の研修の内容は主に「中日における現代日本語教育の現状の比較」であり、岡大での研修の間、学部と大学院の授業を通して、とてもいい勉強になりました。例えば、日本人の先生が日本語教育の中で採用している有効な教育方法は何か。毎学期の授業のカリキュラムをどのように組んでいるか。また、留学生の日本語能力と専門知識を高めるために、教師としてどのような対策を求められるか。専門教師としてどのような素質と能力を備えるべきかなどです。このような今回の研修で身につけた知識を活かして中日両国の日本語教育事業の発展に力を尽くしたいと思います。そして、優秀な日本語教師を目指したいと思います。

中日両国は昔から深い繋がりを持っていますので、私は、江西省と岡山県の友好交流の一員として、今後、両省県の交流を深めるために微力ながら、貢献していきたいと考えております。最後、中日両国が平和で、温かさに満ち、希望が溢れ、友好関係がますます発展することを心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。